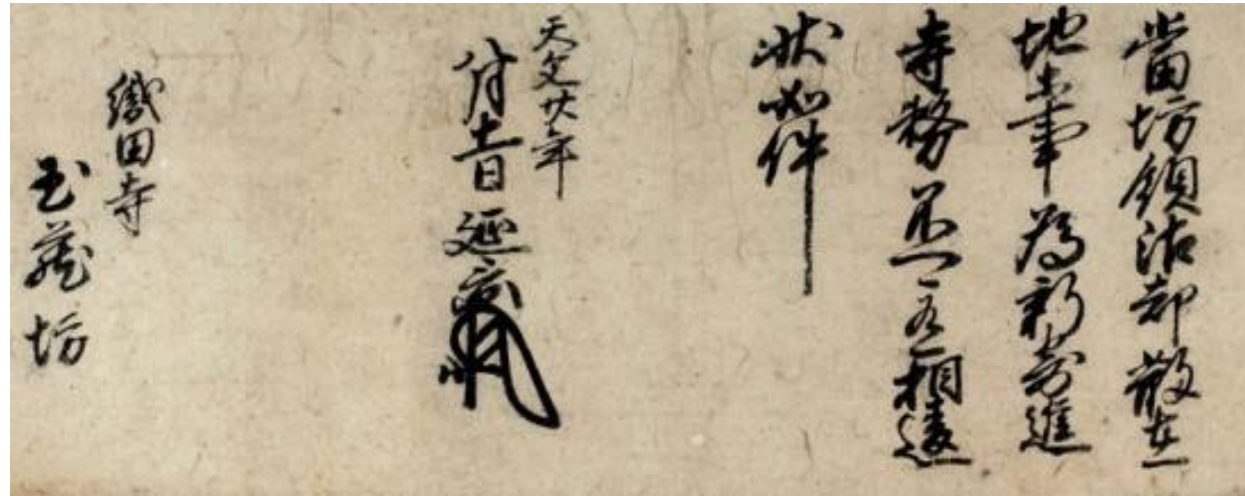


# 朝倉義景安堵状



1551年（天文20）8月11日「朝倉延景安堵状」

山内秋郎家文書（当館蔵）[デジタルアーカイブへ](#)



織田寺 玉蔵坊	天文二十年 八月十一日 延景（花押）	現代語訳 以前売却されて織田寺玉蔵坊から離れた土地は、新たに玉蔵坊に寄進するため、玉蔵坊が支配すること間違いはない、以上、	織田寺 玉蔵坊	天文廿年 八月十一日 延景（花押）	翻刻文 当坊領沽却散在地等事、為新寄進寺務不可有相違状如件、
------------	-----------------------	--	------------	----------------------	-----------------------------------

## 解説／福井とのかかわり

15世紀後半、守護大名畠山氏・斯波氏の内紛と足利将軍家の跡目争いが、各地の守護を巻き込んだ戦いへと拡大していきます。世にいう**応仁の乱（応仁・文明の乱）**です。その混乱の中、朝倉孝景は1471年（文明3）に西軍から東軍に寝返り、敵対する斯波氏を退けて越前の支配者となりました。

16世紀になると隣国加賀の一向一揆の脅威はありましたが越前国内は安定し、行政・裁判の制度も整備されました。城下町である**一乗谷**には多くの文人・学者が訪れ、「小京都」と呼ばれるほど繁栄しました。

朝倉義景は朝倉氏最後の当主で、初めは延景といました。1552年（天文21）6月16日、室町幕府の第13代将軍・足利義輝より「義」の字を与えられ、義景と改名しました。1565年（永禄8）に将軍義輝が三好氏らによって暗殺されると、その弟であった義秋（後の義昭）を一乗谷に迎えましたが、彼とともに上洛することはありませんでした。

その後、義昭は上洛する気のない義景を見限り、**織田信長**を頼って越前を去ります。そして義昭が15代将軍に就くと、信長は義景に謀反の意があるとして、朝倉氏を攻撃。3年以上におよぶ戦いの末、ついに1573年（天正元）、義景は大敗し、大野へ逃れて自刃しました。一乗谷は戦火に焼かれ、戦国大名朝倉氏による越前支配の時代が終わりを告げました。

## 資料の注目ポイント

本資料は朝倉延景（後の義景）が**劔神社（越前町）の神宮寺**である織田寺に発行した**安堵状**です。安堵状とは、武家社会において、将軍・大名が家臣や寺社等に対し、旧来の所領の支配・保持を保障した文書のことです。資料では、日付のあとに「延景」の署名と**花押**（署名を簡略な形に変化させたサインのようなもの）がみられます。

安堵状のあて先である織田寺玉蔵坊とは、織田寺の子院（本寺に付属する小寺院）で、朝倉氏の祈願所でした。資料では、玉蔵坊がかつて売却して手放してしまった土地を朝倉氏が取り戻して寄進し、玉蔵坊が再び支配することを保証する内容となっています。

関連資料、展示等

名称	概要	備考
「朝倉延景安堵状」	山内秋郎家文書（当館蔵） 資料番号 X0142-00001	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-557658-1-p2">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-557658-1-p2</a>
福井県文書館月替展示 「花押は語る－朝倉氏の織田支配」	「朝倉延景安堵状」を展示。	当館 WEB で公開中。 <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/200902AM/200902.html">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/fukui/08/m-exhbt/200902AM/200902.html</a>

参考文献等

- ・『福井県史 資料編 5 中・近世三』（1985年、福井県）
- ・『福井県史 通史編 2 中世』（1994年、福井県）
- ・『ふるさと福井の先人 100人』（2016年、福井県教育委員会）